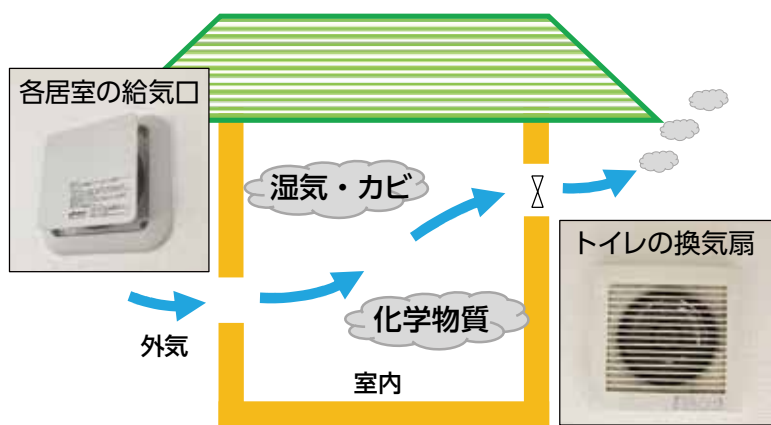


# 住宅にお住まいのうえでのお願い

## 24時間換気システム

24時間換気は「湿気対策」と「シックハウス対策」の2つの観点から、必ず作動させるようにお願いします。



24時間換気システムとは、窓を使わずに機械を使って室内の空気を外気と入れ替える設備の事です。

現代の日本住宅は技術力向上に伴い、気密性の高い住宅になってきました。それにより換気が十分に行われないと、建材や家具などに含まれるホルムアルデヒドを始めとした化学物質や、結露によるカビなどが室内に滞留してしまいます。この化学物質やカビ等が原因で起こるシックハウス症候群（目がチカチカする、鼻水、喉の乾燥、吐き気、頭痛、湿疹など）が懸念され、24時間換気システムを取り入れることが建築基準法で義務付けられています。

弊社の建物は、**各居室の給気口と各トイレの換気扇**で換気量計算をしています。  
給気口を開き、トイレの換気扇を常に運転しておくようにお願いします。

※湿度が高くカビが発生しやすい梅雨時や、花粉が気になる季節は室外の空気を取り入れない方がいいのではないかと疑問を持たれる方もいらっしゃると思いますが、24時間換気を切ると室内に空気が流れが起きず滞留してしまいます。室内環境に合わせて加湿器・除湿器・空気清浄機などをご使用いただくことは問題ありませんが、過度な加湿は結露発生の原因となりますのでご注意ください。

※台風や急な大雨の際や、砂埃が多い時に一時的に閉じる・止めることは問題ありません。

## メンテナンス方法

給気口には砂埃やゴミが入ってこないようフィルターがついていますので、2ヶ月に1回を目安にきれいにしましょう。（フィルターのついていない仕様もあります）

外し方はお渡ししている各メーカーの取扱説明書をご確認ください。

下記、大建工業「24時間換気システム エアスマート」の場合

①シャッターを外す



シャッターの中央部を数回押しして全開にし、シャッターを手前に引くと外れます。

②フィルターを外す



フィルター枠を左に回し、手前に引くと外れます。

## 停電した場合

弊社ではスマートメーター対応のブレーカーを採用しています。スマートメーターとは自動で使用電気を計測したり、アンペアブレーカーを遮断・復旧する機能が備わっています。

停電が発生した場合、地域的に停電しているのか、お客様宅のみで停電しているのかご確認ください。地域的な停電の場合は、管轄の電力会社様HPもしくは市町村HPで停電状況を確認することができます。

お客様宅のみで停電している場合は、下記の手順に従ってご確認ください。

自宅のみで停電している

### 【1分程度の停電で電気が復旧した】

スマートメーターのアンペアブレーカー機能により自動で電気が復旧します。  
※過電流（電気の使い過ぎ）によりアンペアブレーカーが遮断したことが原因での停電。  
同時にご使用いただく家電にご注意いただきますようお願いいたします。

### 【1分以上経過しても復旧しない】

ブレーカーの状況をご確認ください。

#### 【ブレーカーAが〈切〉の状態】

漏電、もしくは機器の故障が発生している可能性があります。

##### 【確認手順】

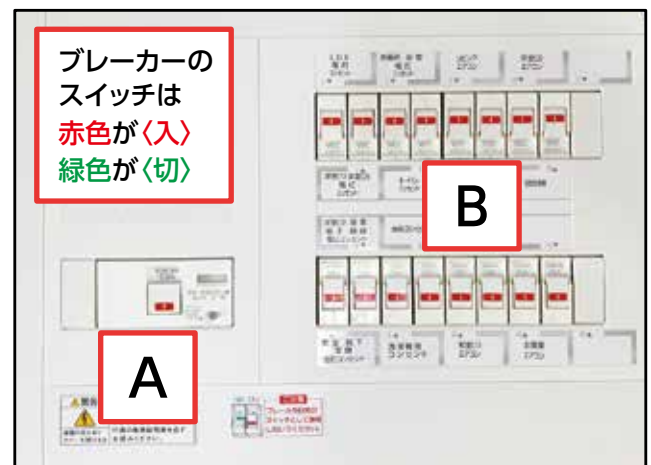
- ①ブレーカーBのつまみをすべて〈切〉の状態にし、ブレーカーAのつまみを〈入〉にしてください。
- ②ブレーカーBのつまみを順番に〈入〉にしてください。〈入〉にした際にブレーカーAが〈切〉になった場合、そのつまみにつないでいる回路で漏電等が発生している可能性があります。
- ③②で該当ブレーカーBに記載されているお部屋のコンセントにつながっている機器を全て外し、再度ブレーカーBのつまみを倒してください。

問題なくつまみが倒せた場合は、コンセントにつないでいた機器が原因となります。  
ブレーカーAが立ち上がる場合はコンセントや配線に不具合が発生しております。  
修理につきましては弊社メンテナンス窓口へご相談ください。

#### 【ブレーカーAが〈入〉の状態】

スマートメーターにてアンペアブレーカーを遮断している可能性があります。  
ブレーカーAのつまみを一度〈切〉にし、再度〈入〉にしてください。

それでも改善しない場合は漏電が発生している可能性がありますので、左記【ブレーカーAが〈切〉の状態】の確認手順にて漏電箇所の特定制をお願いいたします。



## 冬期の給湯器の使い方

冬期（特に夜間）は給湯器内の水が凍結する可能性があります。

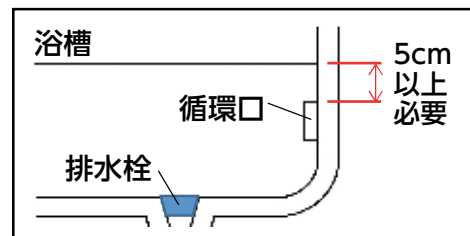
凍結は給湯器の故障の原因にも繋がります。給湯器本体には、あらかじめ「凍結予防ヒーター」と「自動ポンプ運転」の2つの凍結防止機能が備わっていますので、下記方法で凍結対策をお願いします。

※下記方法は一例です。詳しくは、お渡ししている各メーカーの取扱説明書をご確認ください。

1. 外気温が下がると自動的に給湯器内の配管を保温する「凍結予防ヒーター」が作動します。分電盤の電源が入っていること、給湯器のコンセントが抜けていないことをご確認ください。



2. 浴槽に右のイラストのように水を溜めます。循環口より5センチ上まで水を溜めれば「自動ポンプ運転」により給湯器内の水が循環し、外気温が低い時に凍結を防止できます。

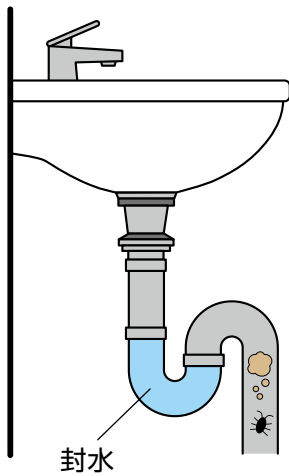


3. 東北地方では右写真のように給湯器付近に「水抜き栓」が施工されている場合があります。この水抜き栓で「水を抜く」にハンドルを回すと給湯器内の水が全て排水されます。凍結する水が無くなるので、これも凍結防止方法のひとつです。蓋を開けるとハンドルがありますので、必要な方向に止まるまでまわしてください。



## 排水トラップについて

キッチン・トイレ・洗濯機・洗面台・お風呂等、水周りの設備機器の排水口には必ず「排水トラップ」が使われています。



左図のように、水が溜まっている事で下水道からの臭気や害虫等が上がってくるのを防いでいます。

長期にわたり家を空ける場合や、機器の使用頻度が少ない場合、夏季におきましては水が乾燥してしまい、臭気が家の中にあがってくる原因となります。

もし水が枯れてしまっても使用するうえでは差しさわりありませんが、定期的に水を流してトラップ内に新しい水を溜めることを推奨いたします。

### ★油の多いものは排水口へ流さないようお気を付けください。

排水管に油を流してしまうと、油が冷えて固まり、それが蓄積されると排水詰まりを起こしたり、排水トラップからの異臭の原因となります。油分を多く含んだものを直接排水口へ流さないようにしてください。また、油が多く付着したお皿や鍋はキッチンペーパーなどでふき取りをしてから洗うなどのご配慮をお願いいたします。

地域によっては、キッチン排水にグリストラップ（ゴミや油分の除去のためのトラップ）の設置が義務付けられている場合がございます。グリストラップに溜まったゴミや油分は定期的なお掃除が必要です。詳しくはお住まいの地域の上下水道課へお問い合わせください。



グリストラップ（蓋を閉めた状態）



グリストラップ（蓋を開けた状態）

## 下地探し・壁/カーテンレール等

室内は下地のある位置が限られています。  
カーテンレールや額縁等を固定する場合は、下地の位置を確認してください。



壁面に入っている下地を探す器具 (左図)

※器具の先端に針が付いているので、取扱いには十分注意するようお願いします。

下地がないとビスが固定できず、カーテンレール等が取り付けられません。

## カーテンレール取付け場所の下地確認方法

カーテンレールご購入の際は、必ず事前に取付場所の「下地」をご確認ください。

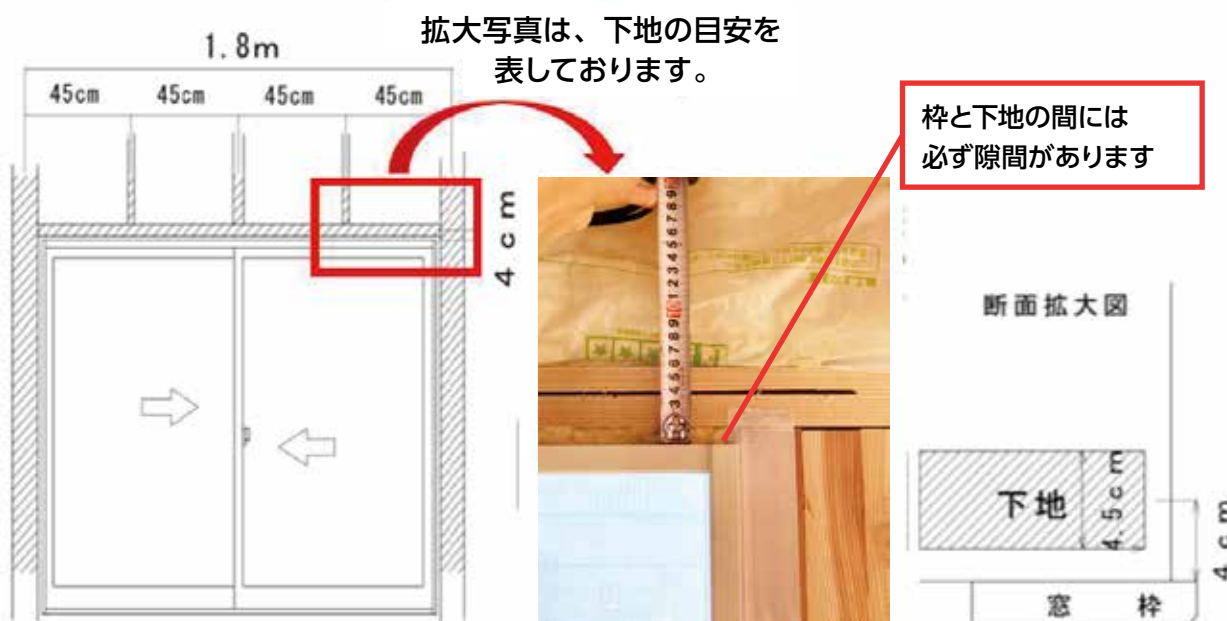
間取りや、場所によりカーテンレールが設置できない場合がございます。

下地探し専用器具等を用いて、下図を参考に下地のある位置をご確認ください。

※カーテン業者様と打合せを行う際は、このページを基にカーテン業者様とお打合せください。

【下地位置参考図】(木材の品質上、数mm程度の誤差がある場合がございますのでご注意ください。)

・工具やボンドを使用される場合は、各取扱説明書に従いご使用ください。



※下地にしっかり固定させるには、長さ3~4cmの取付ビスの使用を推奨しております。カーテンレールの商品によっては、付属のビスが短く下地にしっかり固定されない場合がございます。

※窓まわりに壁面やエアコン、クローゼットなど、干渉するものが無いかについてもご確認ください。装飾レールなどでキャップ・ギボシが大きいものは、特にご注意ください。

(右記の図参照)

